

## 【宋代の文化】

士大夫（知識人層）の発達。

〈儒学〉

北宋：周敦頤…「太極図説」：道徳を理論的に説明。



南宋：朱熹（朱子）…朱子学を大成。

①理気二元論…理と気が合わさって世界を構成する。

②性即理…人間の心の本性は理である。

大義名分論…君臣、父子の秩序は絶対的なものである。

⇔陸九淵は朱熹の説を批判して心即理を唱えた。

〈文学〉

唐宋八大家…韓愈（唐）、柳宗元（唐）、歐陽脩、蘇洵、蘇軾、蘇轍、  
曾鞏、王安石

歐陽脩…「新唐書」「新五代史」：宋代の大義名分論的歴史観。

蘇軾…「赤壁の賦」：作者の赤壁での思い出を書いた作品。

司馬光…「資治通鑑」：編年体で記された通史。戦国時代から五代末までを記す。

朱熹…「資治通鑑綱目」：資治通鑑の注釈

〈芸術〉

・院体画…宮廷の画院で描かれた写実的な絵画。徽宗のときに全盛期。

徽宗…靖康の変で囚われた皇帝。代表作「桃鳩図」

・文人画…別名を南宗画ともいう。士大夫などが非職業的に描いた絵。

〈その他〉

・詞の流行…歌曲の中で歌詞が独立して発展した韻文。宋词ともいう。

・全真教…金の王重陽が仏教、儒教、道教を融合させて成立させた。